

# 第1章 並列：英文は線対称

〈構文〉というとき、there is 構文や too ~ to ... 構文などを浮かべる人もあるかと思うが、これらは〈決まり文句〉〈慣用句〉〈熟語〉とでも言える表現である。〈構文〉の定義もあいまいなのだが、there is 構文や too ~ to ... 構文といった定型表現に限らず、文構造全般を指すこともある。

there is 構文や too ~ to ... 構文などは形と意味を覚えてしまえばすむ話だが、たいていの英語学習者を躓かせるのはむしろ、こうした定型表現よりも and や that や関係代名詞などが登場するいわば〈地味な文〉の方である。こちらは定型表現のようにただ暗記だけすればすむという話ではないので、正しい英文解釈のためには、その根本となる文法原理がわかっているなければならない。そこでまず第1章では、英文では頻度最多の and を中心に英文の文構造というものの法則性を見出しながら正確に読む訓練をしていこう。

まずは次の文を正確に訳せるだろうか。

- (a) Jim likes coffee and cake.
- (b) Jim likes swimming and jogging.
- (c) Jim likes to go to the airport and to watch planes arriving and departing.

中学校レベルの英語力がある人なら (a) と (b) は楽勝だろう。

- (a) 「ジムはコーヒーとケーキが好きだ」
- (b) 「ジムは水泳とジョギングが好きだ」

では、(c) はどうだろう。「ジムは空港に行くのが好きで飛行機の離発着を見る」などと訳していないだろうか。これは誤訳である。(a) と (b) の文から逆算して、ここに and という単語を使う際の法則性を見いだせないだろうか。それを発見すれば、その法則にしたがって (c) の文も解釈することになる(解説は次ページ)。